

インド太平洋の安全保障に関する米国の新たな野望

ピート・ヘグセス 米国国防長官

2025 年 5 月 31 日（土） 第 22 回シャングリラ対話での演説

<https://www.iiss.org/ja-JP/events/shangri-la-dialogue/shangri-la-dialogue-2025/plenary-sessions/first-plenary/>

おはようございます。シンガポールを訪れることができ、大変光栄です。バスティアン、温かい歓迎をありがとうございます。シャングリ・ラ・ダイアログは、インド太平洋地域および世界中の防衛担当者が一堂に会する重要なフォーラムです。今朝、私たちを歓迎してくださった IISS に感謝申し上げます。

先ほども述べました通り、国防長官として 2 度目のインド太平洋訪問は、私にとって大きな誇りです。今後も何度もこの地を訪れるつもりです。皆さん、私から逃れることはできませんよ。しかし、それは私だけではありません。米国は、インド太平洋地域に戻ってきたことを誇りに思っており、今後もこの地域にとどまるつもりです。

アメリカ合衆国はインド太平洋国家です。私たちの共和国が成立した当初からそうであり、今後も世代を超えてインド太平洋国家であり続けるでしょう。

トランプ大統領のリーダーシップの下、米国は「強さによる平和」の実現にコミットしています。これは、世界中で、特にインド太平洋地域、私たちの優先地域であるここ、同盟国とパートナーと共に、侵略を阻止することから始まります。米国は、グローバルな平和と地域的な平和を共に守るために、行動を起こす用意のあるあらゆる国と協力する用意があります。

本日ここにご出席いただいたことは、私たちの共通の目的、平和への共通のコミットメント、自由で開かれたインド太平洋への共通の献身を示す強いメッセー

ジです。

今朝、私は米国国防省のインド太平洋地域に関するビジョンを共有したいと思います。私の役割は、トランプ大統領の意思決定のための余地を創出・維持することであり、彼の代わりに意思決定を代行することではありません。その役割を果たすため、本日は米軍から二人の偉大な軍事指導者が同行しています。統合参謀本部議長、ダン・ラジン・ケイン氏は、グローバルな視点で米国の利益と米国の力を地域的・国際的に統合する方法を理解している素晴らしいパートナーです。もちろん、インド太平洋地域司令官のサム・パパラ提督も同席しています。太平洋におけるアメリカの戦闘指揮官です。提督、ご出席いただきありがとうございます。

私たち3人と国防総省全体は、軍を強化し、選択肢を創出することが任務です。トランプ大統領は、世界舞台で「アメリカ第一」を実践するために選出されました。ホワイトハウスや世界中で彼を直接観察する機会を得た世界は、本当に運が良かったと思います。平和の追求と強固なリーダーを兼ね備えたアメリカ大統領を持つことになったからです。トランプ大統領は、不可能を可能にする独自の能力を持ち、「オーバートンの窓」を動かすことができます。彼は究極のディールメーカーです。

その目的のため、トランプ大統領は国防省における私の使命を明確に示しました。それは力を通じて平和を実現することです。この使命を達成するため、私たちの最優先目標は明確です。戦士精神の回復と軍の再建、抑止力の再確立です。すべては戦士精神から始まります。この武の職業に従事する私たちは、人間がハードウェアよりも遥かに重要であることを理解しています。私たちは致死性、能力主義、責任、基準、準備態勢、戦闘能力に焦点を当てています。私たちは人間の本質、厳しい訓練、歴史の教訓を尊重します。

私たちの戦闘部隊は訓練され、スキルを磨かれるでしょう。基準は高く、揺るがないものでなければなりません。任務を遂行できる者が部隊に所属します。できない者は所属できません。人種や性別に関係なく、能力主義です。それだけです。これが戦士精神の回復であり、アメリカの兵士たちはこれに答えています。士気、

募集、定着率、準備態勢、訓練、能力——すべてがトランプ大統領の「基本回帰」アプローチにより急速に改善されています。

私たちの第二の優先事項は軍の再建です。アメリカ軍の戦闘員に最先端の能力を装備し、世界最強で最も致命的な戦闘部隊として維持するためです。トランプ大統領は、来年初めて、1兆ドルを超える予算を投入し、アメリカ国防費を13%増額します。

アメリカのための「黄金のドーム」、新型第6世代戦闘機 F-47、新型ステルス爆撃機 B-21、新型潜水艦、駆逐艦、極超音速兵器、ドローン——これらすべてが計画に含まれています。世界最高の軍事装備です。私たちは防衛産業基盤を再興し、造船所に投資しています。次世代のリーダーとして世界トップの地位を維持するため、新興技術の開発を急速に進めています。私たちはこれまで以上に強靱でありながら、より機敏です。

私たちの軍隊が最も高度な武器システムを装備し、勝利の意志を持つ熟練した戦士によって使われることを知れば、敵は戦場で私たちに挑戦してくる可能性は低くなります。これがまさに目的です。

これが第三の目標である抑止力の再確立につながります。バイデン政権下の4年間でメンテナンスが延期されたため、世界は残念ながら無力なアメリカを目撃しました。南部の国境に2100万人の不法移民が侵入。2014年にクリミアで起きた事件の後のロシアのウクライナ侵攻。10月7日のイスラエルでのイスラム過激派のテロ。アフガニスタンからの屈辱的で致命的な撤退。強化され自信を深めたイラン。我が国上空を飛行した中国のスパイ風船。そして1週間行方不明だった国防長官。

これらは今、終わりを告げます。もう二度とありません。私たちは世界中で抑止力を再確立していますが、信頼できる抑止力は国内から始まります。例えば、私たちの歴史的な「黄金のドーム」のように。それは私たちの国境から始まります。国境の安全保障は、私たちと皆の安全保障です。私たちは南部国境に兵力を増派し、間もなく100%の作戦統制権を確立します。私たちは20年間、他国の国境

をパトロールしてきました。今こそ、**自国の防衛を最優先すべき時**です。

私たちは西半球の安全保障を強化し、悪意ある中国の影響から**パナマ運河を取り戻しています**。これは重要な地域です。あの運河を建設したのは中国ではありません、私たちが建設したのです。中国がそれを武器化したり支配したりすることを許しません。

抑止力は私たちの庭から始まります。国境を越え、近隣地域を越えて、私たちは共産主義中国による侵略を阻止する方向へ再調整しています。その点については後ほど詳しく説明します。

世界中で、私たちは同盟国と協力し、支援し、力を与えています。時には厳しい愛を込めて、しかし愛であることに変わりはありません。私たちは**欧州の同盟国に対し、自国の安全保障をより自発的に担い、防衛に投資するよう促しています**。これらは長年放置されてきた課題です。私たちは、NATOの「N」が北大西洋を意味し、欧州の同盟国が大陸における比較優位性を最大限に活用すべきだと依然として信じています。トランプ大統領のおかげで、彼らは行動を強化しています。

同盟は、現実か認識のどちらかで一方的と見なされる場合、鉄壁にはなりません。その状況は変化しており、これは非常に重要です。**同盟国が負担を分担するにつれ、私たちは優先地域であるインド太平洋への焦点を強化**できます。

ご覧の通り、インド太平洋地域では私たちの未来は密接に結びついていきます。アメリカ国民の繁栄と安全保障は、皆様の繁栄と安全保障と不可分です。私たちは皆様の平和と安定、繁栄と安全保障のビジョンを共有しています。私たちはここに留まる決意です。実際、私たちは今朝ここにいますが、いない人もいます。

しかし、一代にわたって米国はこの地域を無視してきました。私たちは、終わりが見えない戦争、政権交代、国家再建に気を取られてきました。私はイラクとアフガニスタンで兵士として最前線に立っていました。**これら協道の仕事は高コストで、明確な目標を欠き、アメリカの重要な核心的利益と結びついていませんでした。トランプ大統領はこれを変えようとしています。**

私たちは同じ過ちを犯しません。この世代も、今この時もです。そのアプローチは終わりです。私たちはアメリカ国民のために成果を上げることに焦点を当て、彼らの安全保障を保護し、経済的利益を守り、インド太平洋地域の平和を維持するために**常識を重視します**。

シンガポールに立っている今、このアプローチはシンガポールの伝説的な首相リー・クアンユーの現実的なスタイルと非常に一致していると感じます。彼は30年以上にわたり、この国を世界有数の金融とイノベーションの拠点の一つに築き上げました。

故リー・クアンユー首相と同様、トランプ大統領のアプローチは常識と国家利益に根ざし、相互の利益を尊重しつつ他者と協力する意思に支えられ、軍事力の理解を基盤としながらも、戦争ではなく商業と主権に基づく関与を優先する姿勢で形作られています。

この二人の歴史的な指導者は、もはや意味をなさなくなった古いやり方を変革する意欲を共有しています。**私たちは、紛争を不可避とするいかなるパラダイムも受け入れません。トランプ大統領がサウジアラビアのライヤドで述べたように、アメリカには永久的な敵は存在せず、求めるものでもありません。**

トランプ大統領のリーダーシップの下、私たちはこの**常識的なアプローチ**をインド太平洋地域および世界中で防衛政策に適用しており、その成果は自明のものとなっています。トランプ大統領は、私が述べたように、欧州の同盟国に自国の防衛を強化するよう促しています。彼は、アメリカ人を保護しつつ、持続可能で安全な商業の基盤を提供し、私たちの防衛ニーズのための強靱で耐障害性があり信頼できるサプライチェーンを確立する、新たな公正な貿易協定を締結しています。

また、地域内の主要な同盟国との安全保障・防衛体制の再均衡を進めています。これにより、私たち全員が、インド太平洋地域における持続的で強力なアメリカ存在がもたらす平和と安定の恩恵を享受できます。これらの恩恵は、同盟国やパートナーが強くあるほど、さらに拡大します。

トランプ大統領がリヤドでも述べたように、米国は過去の道徳主義的で説教的な外交政策アプローチには関心ありません。私たちは、他の国々に政策やイデオロギーを採用するよう圧力をかけるためにここにいるのではありません。気候変動や文化問題について説教するためにここにいるのではありません。私たちの意志を押し付けるためにここにいるのではありません。私たちはすべて主権国家です。私たちは、築きたい未来を選択する権利があります。私たちはあなたたち、あなたたちの伝統、あなたたちの軍隊を尊重し、平和と繁栄のための共通の利益が一致する分野で協力したいと考えています。

この相互の利益と常識の確固たる基盤の上に、私たちは平和を維持し繁栄を拡大するため、防衛パートナーシップを構築し強化していきます。

しかし、脅威が迫っています。皆が知っているように、平和と繁栄の基盤は強さと安全保障です。そして、強さを通じて平和を実現する私たちの常識的なアプローチは、物事を明確に認識することを求めます。インド太平洋地域で直面する脅威の明白な真実に向き合い、それらに対処するための切迫した意識を持つことが必要です。

その厳しい真実に向き合う前に、そして、私たちの言葉を誤解されないように、特にメディアの友人たちのために、まず明確に言っておきます。私たちは共産中国との衝突を求めません。私たちは挑発せず、支配や屈辱を求めません。トランプ大統領とアメリカ国民は、中国国民とその文明に対して深い尊敬の念を抱いていますが、私たちがこの重要な地域から追い出されることはありません。私たちは、同盟国やパートナーが従属させられたり威嚇されたりすることを許しません。

中国はアジアで覇権国家となることを目指しています。これは疑いありません。この活力に満ちた重要な地域の大部分を支配しコントロールすることを望んでいます。大規模な軍事増強と、目標達成のために軍事力行使をためらわない姿勢、グレーゾーン戦術やハイブリッド戦争を含む手法を通じて、中国は地域の現状を根本から変革しようとしていることを示しています。私たちは目を背けることも、無視することもできません。隣国と世界に対する中国の行動は、目覚ましコールであり、緊急の警鐘です。

中国は、広範で高度なサイバー能力を利用して、貴国や米国を含む各国から技術者を盗み、重要インフラへの攻撃を行っています。これらの行動は、単に私たちの国を脅かすだけでなく、市民の命を危険にさらしています。南シナ海では、中国は隣国を威嚇しており、その多くは本日この部屋にいます。中国は、あなた方の領海で威嚇を試みています。

私たちは、水砲や船同士の衝突、違法な乗船の映像や写真を目撃しています。また、南シナ海での違法な領土の占領と軍事化も確認されています。これらの行動は、隣国への尊重の欠如を露呈し、主権、航行の自由、上空飛行の自由を挑戦しています。私たちは、中国の不安定化行動を非常に注意深く監視しています。

南シナ海と第一列島線における現状を武力や威嚇によって一方的に変更しようとするいかなる試みも、受け入れられません。毎日、中国軍が台湾を挑発する様子が見られます。これらの活動は、核兵器、超音速兵器、両用攻撃能力への巨額投資を含む、中国の急速な軍事現代化と増強と連動しています。北京がインド太平洋地域の力関係を変更するために軍事力を使用する可能性を真剣に検討していることは、すべての人々に明白でなければなりません。

私たちは知っています。——これは公然の事実です——習近平は軍に 2027 年までに台湾を侵攻する能力を保有するよう命じました。中国人民解放軍（PLA）は、そのための軍備を整備し、毎日訓練を重ね、実際の作戦を想定した演習を実施しています。パパラコ提督は、この点について繰り返し明確に発言しています。

繰り返しになりますが、共産中国が武力によって台湾を征服しようとした場合、インド太平洋地域および世界全体に壊滅的な結果をもたらすことは明らかです。それを甘く見る理由はまったくありません。中国がもたらす脅威は現実のものであり、差し迫っている可能性もあります。そうならないことを願っていますが、その可能性は確かにあるのです。こうした脅威に直面して、多くの国が、中国との経済協力と米国との防衛協力を両立させることを検討していることは承知しています。

これは、多くの国にとって地理的な必要性です。しかし、中国共産党（CCP）がその絡み合いで求める影響力には注意が必要です。中国への経済依存は、その悪影響をさらに深め、緊張時の防衛上の意思決定を複雑にします。中国が最終的に何をするかは誰にもわかりませんが、彼らは準備を進めています。ですから我々も準備を整えなければならないのです。

国防総省と同盟国にとって、緊急性と警戒が唯一の選択肢です。なぜなら米国、特にトランプ大統領は戦争を望んでいないからです。私たちは、中国を支配したり、締め付けたり、包囲したり、挑発したりすることを目指していません。政権交代も目指しておらず、誇り高く歴史ある文化を煽ったり、軽視したりすることもあります。私たちは準備を整えますが、無謀な行動はとりません。

代わりに、私たちは平和を求めます。しかし、中国が私たちや同盟国・パートナーを支配できないように確実にしなければなりません。現状を維持するには強さが必要です。これは、誰もが受け入れられる合理的で常識的な目標です。

トランプ大統領はまた、共産中国は彼の在任中には台湾を侵略しないだろうとも述べました。私たちの目標は戦争を防止し、コストを過度に高くし、平和を唯一の選択肢にすることです。私たちは、アメリカの大いなる同盟国と防衛パートナーと共に築いた強力な抑止力の盾でこれを行います。共に、目に見える形と目に見えない形、公然とした手段と秘密裏の手段を通じて、強さによる平和を実現する意味を示します。

しかし、抑止力が失敗し、私の最高司令官から命じられた場合、私たちは国防総省が最も得意とすることを実行する準備ができています。戦い、決定的に勝利することです。

私が繰り返し述べてきたように、そしてこの部屋にいる皆さんと世界中が今日聞くべきことは、アメリカ・ファーストは決してアメリカ単独を意味しません。特に、ポーランド、イスラエル、湾岸諸国、バルト諸国のような模範的な同盟国と共にいる限りは。また、世界無視を意味するものでもありません。皆さんが目撃してきたように、トランプ大統領はウクライナにおける持続的で安定した平和にコミットしています。イランが核兵器を保有しないことを確実に

するという揺るぎないコミットメントのもと、彼は強固で検証可能な合意を追求しています。他の選択肢は地域戦争、あるいはそれ以上の事態です。

この地域への焦点を移す中、ヨーロッパが自らの安全保障に責任を負う役割を強化する中、トランプ大統領と私は、この部屋、同盟国、パートナーの皆様が、アメリカと共に平和の力増要因となることを期待しています。私たちは、同盟国とパートナーが防衛において自らの役割を果たすことを求め、まさに要求します。時には、不快で厳しい議論が必要になることもあります。パートナー同士は、過去数日間、私たちが互いに示してきたように、正直で現実的な態度を示す義務があります。これが、現実的で常識的な防衛政策の核心です。

しかし、皆様もご承知の通り、私たちは同盟国とパートナーへの忠誠を貫き、今後も維持していきます。私たちの多くの国々の軍隊間の関係は数十年にわたり、場合によっては数世紀に及んでいます。実際、持続可能な同盟とパートナーシップを確保する唯一の方法は、各側が自らの役割を果たし、その利益を認識することです。私たちは皆様と共に立ち、中国の侵略を阻止するために協力していきます。中国が行動を起こし、現状を覆そうと決めた場合、毎日、共に新たなジレンマと複雑さを生み出していくでしょう。より多くのジレンマ、より多くの複雑さ、より多くの疑問、より多くの懸念、より多くの変数、より多くの「それは価値がない」と主張する理由。

誰も、アメリカがインド太平洋の同盟国とパートナーに対するコミットメントを疑うべきではありません。私たちは、条約同盟国だけでなく、東南アジア諸国連合（ASEAN）やインド太平洋地域全体の主要な防衛パートナーを含む、友人たちを抱きしめ、新たな協力の方法を模索し続けます。例えば、インドとの防衛関係が急速に深化している点を見れば明らかです。防衛産業の共同事業から、両軍間の運用調整と相互運用性の強化まで、新たなマイルストーンを日々達成しています。

私はすべての同盟国とパートナーに、この機会を共に捉えるよう促します。私たちの防衛支出は、直面する危険と脅威を反映しなければなりません。抑止力は安易に得られるものではありません。アメリカの納税者に尋ねればわかりま

す。時間は待ってられません。私たちは緊急性を帯びて行動を起こさなければなりません。

ヨーロッパを訪問した後、この言葉を口にするのは少し信じがたいかもしれませんが、トランプ大統領のおかげで、アジアの同盟国はヨーロッパの諸国を新たな模範として見据えるべきです。NATO 加盟国は GDP の 5% を防衛費に充てることを約束しています。ドイツも例外ではありません。欧州諸国が、アジアの主要な同盟国がより深刻な脅威に直面しながらも防衛費を削減している中で、そのような措置を取ることは理にかないません。北朝鮮の問題も考慮すれば、なおさらです。

最終的に、強固で決意に満ちた能力のある同盟国とパートナーのネットワークが、私たちの最大の戦略的優位性です。中国は私たちが共に持つものを羨望し、私たちが防衛において共同で発揮できる力を認識しています。しかし、その潜在力を実現するためには、私たち全員が投資を続けることが不可欠です。インド太平洋地域の米国同盟国は、自国の防衛能力を迅速に強化すべきです。トランプ大統領は先月リヤドで自ら述べたとおり、必要に応じて米国力を迅速かつ断固として行使することを躊躇しません。これが抑止力の再確立です。

私たちはインド太平洋地域で、3 つの異なる方法でこれを行っています。詳細を少し説明させてください。第一に、前線部隊の配置を強化することです。第二に、同盟国とパートナーの防衛能力強化を支援することです。第三に、防衛産業基盤の再建です。

第一に、国防総省は、第一列島線と第二列島線沿いで抑止力を発揮するため、西部太平洋に前線配置された戦闘能力を有する部隊を優先的に配置しています。3 月のインド太平洋地域初訪問時、私はフィリピンを訪問し、マルコス大統領と国防相テオドロ氏と会談しました。その際、フィリピンへのより高度な米軍能力の展開を約束しました。また、米海兵隊の移動式対艦ミサイルシステム「NMESIS（海軍海兵隊遠征艦船阻止システム）」の海外初展開をフィリピンに発表しました。米軍で最も能力が高く致命的な部隊の一つである第 3 海兵近接連隊は、フィリピンの同盟国と共に NMESIS を訓練しました。

私たちは、フィリピンと台湾の間にあるルソン海峡のバタン諸島にシステムを配備しました。これにより、最先端のプラットフォームにおける相互運用性が向上し、必要とされる場所とタイミングで準備態勢が強化されました。

また、米特殊部隊とフィリピン海兵隊がバタン諸島で複雑な上陸シナリオを想定した共同訓練を実施することを発表しました。これは、私たちの部隊が最も過酷な環境下でも高度な作戦を遂行できることを示しています。

また、東京を訪問し、石破首相と中谷防衛大臣と会談しました。私たちは、在日米軍（USFJ）の本部を近代化することを発表しました。これは、戦闘能力と抑止力、そして常識の問題です。USFJの近代化は、日米同盟が新興脅威に対応するために進化する中で、同盟の重要な取り組みを反映しています。また、同盟が相互運用性の向上と日本の能力強化に向けて進歩を遂げたことも示しています。

今夏、米陸軍はオーストラリアで中距離能力システムの実弾射撃試験を初めて実施する予定です。これは同システムが国際日付変更線以西で初めて発射されるだけでなく、外国の土壌で初めて試験されることになります。このような展開は地域へのコミットメントを示しており、さらに多くの計画が進行中です。

国内では、「アメリカのための黄金のドーム」が敵対勢力による大規模なミサイル攻撃から米国本土を防衛します。米国本土のミサイル防衛を強化しつつ、インド太平洋地域におけるミサイル防衛の改善方法を探求していきます。

私たちは地域統合型航空・ミサイル防衛システムを活用し、日本とオーストラリアとの間で複数の重要なミサイル防衛技術とデータ共有パートナーシップを展開しています。米国の最先端技術を活かし、地域全体の航空・ミサイル防衛体制を強化しています。

第二に、同盟国とパートナーが自国の防衛能力と容量を強化するのを支援しています。私たちは、米国とより効果的に協力できるパートナーとして、依存するのではなく自立した存在として支援したいと考えています。米国防産業が誇る即応性のある革新的な自律システムを迅速に提供するため、努力を続けていきます。

これが、当省が米国産業と協力して「海上安全保障（MARSEC）コンソーシアム」を設立した理由です。このコンソーシアムは、無人航空機や船舶を活用して海上領域の状況を把握し、実際の作戦効果を実現する能力を構築・維持します。これらの能力は、迅速かつ低コストで提供され、東南アジアの防衛パートナーと戦場での戦闘員に最先端の優位性を提供します。

パートナーとの協力において重要なのは、相互運用性を高めること、つまり、一体となって航行、飛行、戦闘を行う方法を学ぶことです。今年フィリピンで開催されたバリカタン演習は、過去最大規模のものとなりました。南シナ海では、オーストラリア、日本、フィリピンとともに、定期的な海上活動を続けています。また、タイガー・トライアンフなどの大規模な軍事演習を通じて、インドとの安全保障上の連携も拡大しています。さらに、クアッドやその他の多国間枠組みにおける協力も強化しています。

クアッドでは、インド太平洋物流ネットワーク（IPLN）というイニシアチブも主導しており、クアッドのパートナーがインド太平洋地域で共有の物流能力を活用できるようにしています。初心者には戦略を語り、プロは物流を語る、とよく言われます。

オーストラリアとの「タリスマン・セイバー」やタイでの「コブラ・ゴールド」など、この地域のすべての同盟国と合同演習を行う機会を得られることを感謝しています。こうした演習は、私たちの戦闘力を高め、即座に対応できる準備態勢を強化するものです。これは、昨年 3 月にタイで発生した地震への対応において、タイ軍とともに確実に実践されました。平時に飛行、航行、共同作戦を行うことは、不測の事態に備える上で不可欠です。

第三に、私たちは防衛産業基盤の活性化と、最も致命的で効果的な能力への資源の再配分を進めています。これは、戦場での成功がそれを要求するからです。敵が演習で多国籍部隊が共同で行動するのを目にするのは一つのことです。しかし、同じ国が、その部隊を支援し、戦闘を継続させるために準備を整えた統合された防衛産業基盤を目にするのは、全く異なることです。そのため、私たちは「インド太平洋産業レジリエンスパートナーシップ」（PIPIR）を支持することを嬉しく思います。これは、米国が主導する 14 の同盟国とパートナーからなる多国間フォーラムで、産業、資本提供者、主要な非政府関係

者と協力し、産業レジリエンスの強化、能力の拡大、供給の加速を目的としています。

本日、私は PIPIR の最初のプロジェクトを発表できることを誇りに思います。最初のプロジェクトは、オーストラリアで P-8 レーダーシステムの修理能力と容量を確立することを計画しています。これにより、ニュージーランドや大韓民国を含むインド太平洋地域の同盟国とパートナーは、米国本土の単一の修理源に依存することなく、地域内で航空機の修理を行うことが可能になります。

2 つ目のプロジェクトは、インド太平洋地域における小型無人航空システム（SUAS）の基準を策定し、その critical components の安全な生産源を特定し、これらの不可欠なシステムのグローバルなサプライチェーンレジリエンスを強化するものです。

同様に、地域維持枠組みを通じて、米陸軍の水上輸送船修理に関する既存契約の拡大などに取り組んでいます。このイニシアチブの目的は、インド太平洋地域全体で修理能力を拡大するため、より多くの提供者を参入させることです。

また、同盟国の世界トップクラスの船舶修理能力を活用して、米海軍の作戦効率を高め、納税者の負担を軽減します。これらの取り組みにより、戦域での修理能力へのアクセスが向上し、遠方のサプライチェーンへの依存度が低下することで、地域の回復力が強化されます。

私たちは、歴史的な勢いと目的を持って、オーストラリアの誘導兵器・爆発物企業（GWEO）との協力を深めています。この取り組みは、私たちの技術的優位性を確保し、弾薬サプライチェーンの回復力を高めます。この 2 カ月間で、オーストラリアが 155 ミリ弾薬を生産し、誘導多連装ロケットシステム（GMLRS）を組み立てることで合意に達しました。これらの措置は、私たちの準備態勢を強化し、集団防衛産業基盤のアップグレードを促進するものです。

私たちは、侵略を阻止するために必要な装備の共同生産について、インドと協力しています。これには、両国の産業基盤をさらに緊密にする協定の交渉も含まれます。先月、米国とインドは、米国・インド自律システム産業同盟

（ASIA）の一環として、最先端の自律システムを生産・導入するための、初の産業・政府専門家交流会を開催しました。

全体として、米国、同盟国、パートナーは、力による平和の実現に向け、これらの分野を含む多くの分野で大きな進展を遂げていますが、迅速に行動し、時間を無駄にすることはできません。

最後に、リー・クアンユー氏がシンガポールを世界有数の成功事例の一つに変えたのは、賢明なリーダーシップと戦略的ビジョン、そして緊急性への意識でした。多くの人々はこれを「シンガポール・ミラクル」と呼んでいます。これが常識的な政策が実現できるものです。

まさにそれがトランプ大統領のビジョンです。トランプ大統領は平和の指導者であり、平和の人物であり、平和の力です。共に、私たちは力を通じて平和を実現し、抑止力を再確立し、負担を分かち合い、力を倍増させ、偉大な同盟を強化し、文化を尊重し、戦争を始めるのではなく予防し、私たちの国々の相互の利益のためにより良い未来を築いていきます。

先日のインド太平洋地域訪問の際、私は真珠湾のUSS アリゾナ号の残骸から油が滲み出るのを見ました。フィリピンのマニラアメリカ軍墓地で、1万7,000人を超えるアメリカ兵の墓標となる十字架の列を目にし、イオウジマの黒い砂浜を歩く機会を得ました。これらの聖地では、過去と、私たちより先に戦った戦士たちとのつながりを、自然と感じずにはいられません。彼らは私、そして知らない人々、自由と平和のために全てを捧げました。

第二次世界大戦終結から80年経った今、私たちは今日の戦士たち、私たちの市民——私たちも市民を最優先にし、あなた方も市民を最優先にしているように——彼ら、私たちの子供たち、孫たちのために、この平和を維持する義務があります。

私の最初の小隊、私が率いた最初の小隊のモットーは「平和を望む者は戦争に備えよ」でした。そして、まさにそれが、私たちが今行っていることです。私たちは戦争を阻止し、力を通じて平和を実現するために、戦争に備えています。この部屋を見渡し、私たちと共にこの重要な任務に当たる同盟国とパート

ナーたちを見据えています。今こそ私たちの時代です。私たちが直面する脅威は待ってはくれません。私たちも待てません。

ありがとう、そしてご武運を。

（了）

【翻訳チェック 田中 靖宏】